

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2011 年 2 月 2 日

派遣者氏名（専門分野）	張 紋絹	（ 日本学 ）
-------------	------	---------

下記のとおり報告します。
記

研究テーマ	「日本語」という「情」の共同体—台湾における日本語によるシルバー・ディケアセンター「玉蘭荘」に焦点をあてて—
-------	--

派遣期間 2011 年 1 月 14 日 ～ 2011 年 1 月 29 日

訪問研究機関	国	都市	訪問機関	受入研究者
	台湾	台北市	「玉蘭荘」	
	台湾	台北市	「台湾日本人会」	

派遣先で実施した研究内容

今回の研究調査において、台湾における日本語によるシルバー・ディケアセンター「玉蘭荘」に焦点をあてて、玉蘭荘をはじめ、関連の人物の自宅とその他の在台日本人と関連のある主な機関、資（史）料室へ、フィールドワークと文献調査を実施した。

【文献調査】

1. 玉蘭荘：

玉蘭荘が発行した会誌「玉蘭（ギョラン）」と「玉蘭荘だより」、『玉蘭のかほり—玉蘭荘創立十五周年記念文集』、『玉蘭のかほり—玉蘭荘創立二十周年記念文集 日本語版』など玉蘭荘の私家版の出版物を全面的に収集した。その中には、玉蘭荘の成立の経緯と変遷、参加者たちの生い立ちやその他のさまざまな思いなどが多く掲載されている。彼（女）らのなかの「玉蘭荘」という日本的な場所の意味性と「日本語」に対する思いなどを分析する際に必要な資料である。

2. 台湾日本人会：

玉蘭荘の台湾日本人会における支援の呼びかけ（ボランティアの募集告知文など）、「21 世紀」、「居留問題を考える会レポート」、「なでしこ会だより」、「風之友」、「さんご」、「たからじま」、「台北市日本工商会会報」など、多くの在台日本人コミュニティの教育、国際結婚、法律、仕事、生活情報などの関連会誌を閲覧・収集した。それらを通して、玉蘭荘に通う在台日本婦人を取りまく大きな社会環境を解明することができるだろう。

3. 日台交流協会資料室：

同じく、日台交流協会の資料室においても、在台日本人の各コミュニティが発行している会誌と在台日本人が関心を持っている書籍を多く所蔵している。そして、台湾の日本語世代に関するさまざまな書籍もおいてあるため、それらを通して、彼（女）らを取りまく台湾と日本の社会環境とその歴史的な変遷を知ることができる。

4. 台湾大学の台湾研究関連の貴重文書の史料室：

玉蘭荘に通う在台日本婦人と日本語世代の台湾人の形成と彼（女）らが日本植民地時代から戦後の台湾において歩んできた歴史を知るために、聞き取り調査だけではなく、厳密な史料調査と聞き

取り調査で得た情報を検証する作業が必要である。その時、この史料室は必ず訪ねる場所である。派遣者はそのためにここを訪ねた。「台湾日日新報」という植民地時代の台湾で発行数の一番多い日本語新聞を閲覧した。また、関連のある統計資料や教育雑誌などの植民地時代に発行された貴重文献を多く収集した。

【フィールドワーク及び聞き取り調査】

1. 玉蘭荘：

派遣期間中は活動日の月曜日と金曜日に訪ねた。ボランティアをしながら、研究テーマに沿って参与観察を実施した。またボランティアの仕事の合間に参加者らと支援者らに対してインタビュー調査を行った。玉蘭荘の活動実態、高齢な日本婦人と日本語世代の台湾人の日本語の使用状況、日本と日本語に対する様々な思い、支援者らの玉蘭荘に対する様々な思いなどについて追究した。

2. 関連人物に対する聞き取り調査：

特に、玉蘭荘と関わりのある支援者3人、参加者の日本婦人4人、参加者の日本語世代の台湾人6人に対して、より長い時間の聞き取り調査を実施した。支援者は主に「台湾の中の日本」というような視点のもとに玉蘭荘を支援していることが分かった。一方、参加者らのライフヒストリーを通して、彼（女）らが経験してきた日本と台湾が交錯した歴史を理解することができた。彼（女）らのライフヒストリーを通して、これまでほとんど明らかにされていない戦後の「日本人」の旧植民地台湾における生活社会史が明らかになるだろう。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

当初は在台日本人妻の全島におけるコミュニティの調査をも実施したいと思っていたが、派遣期間が制限されているため、今回は研究テーマの焦点である玉蘭荘を中心に研究調査を実施した。

これまでの派遣者個人での玉蘭荘における研究成果を踏まえて、今回は主に日本語世代の台湾人にとっての日本語を使用することの持つ意味、彼（女）らの玉蘭荘という日本的な場所を求める心情の背後にある日本植民地時代に対するさまざまな複雑な思い、在台日本婦人が戦後の台湾で直面せざるを得なかったこと、彼女らを取りまく戦後の台湾の社会的・政治的状況、現在の台湾における日本（人）に対するまなざしなど、これらの課題を主な研究課題として研究調査を実施した。日本ではほとんど入手できない資（史）料を多く入手したため、これらの資（史）料を整理・分析して公開する作業は今後の在台日本人と日本語世代の台湾人に関連する研究に役に立つであろう。また、日本語世代の台湾人に関連するノンフィクションなどの書籍は少ないが、存在している。一方、在台日本人が生きた戦後の台湾に関連する書籍はほとんどない。これらの日本人と日本語世代の台湾人が一緒になっている玉蘭荘のようなコミュニティの研究はさらに皆無といえる。そのため、派遣者のこの研究調査は「台湾の中の日本」を理解することの一助になるであろう。

派遣後の研究発表の予定

1. 『東アジア研究』（2月）に投稿。
2. 『待兼山論叢』（3月）に投稿。
3. 『コンフリクトの人文科学』（3月）に投稿。
4. 「台湾史研究会」（5月）で発表。
5. 国際シンポジウム「Movement, Migration and Mobility in East Asia」（6月）で発表。
6. 国際シンポジウム「4th Congress of the Asia and Pacific Network」（9月）で発表。



(玉蘭莊の入口)



(活動する主な教室)



(玉蘭莊の室内)



(玉蘭莊の室内)



(日本語の本が多く並んでいる本棚)



(玉蘭莊の莊歌と日本の人形などの飾り物)



(台湾日本人会のポスター)



(図書・資料室)



(さまざまな在台日本人コミュニティの会誌)



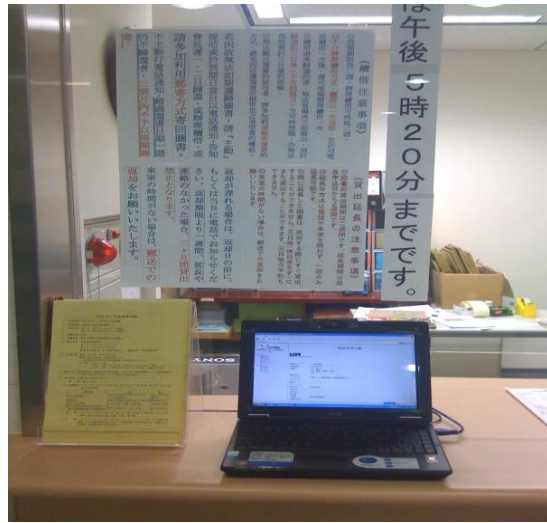
(玉蘭荘のボランティア募集の告知文)



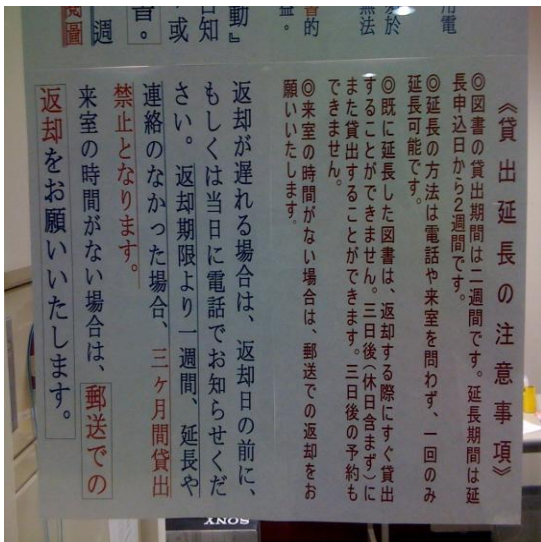
(在台日本人コミュニティの連絡リスト告知文)



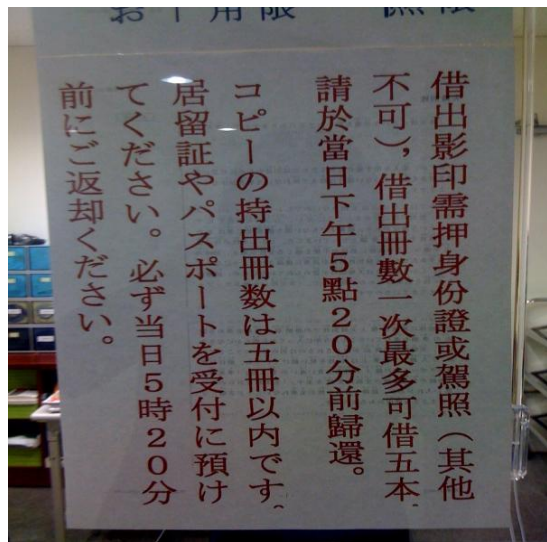
(日台交流協会の資料室)



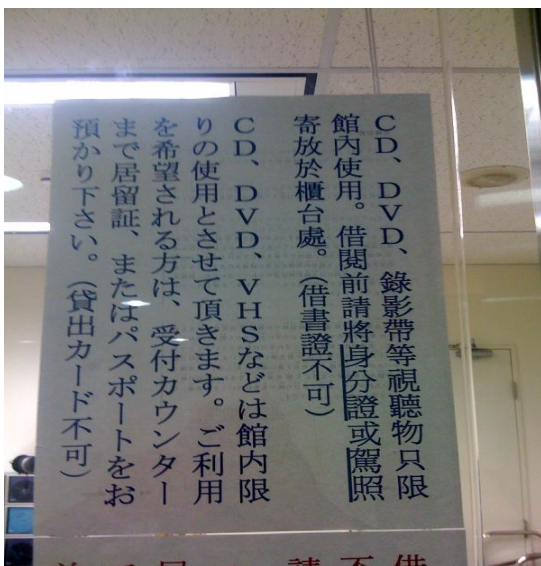
(利用案内と検索用のパソコン)



(貸出マニュアル)



(コピーマニュアル)



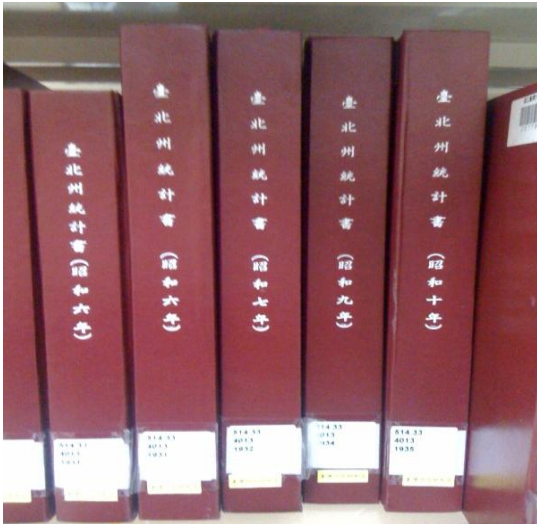
(CD/DVD/VHS などの使用マニュアル)



(台湾大学図書館本館)



(5階の台湾研究貴重文書の閲覧区)



(日本植民地時代の統計書)



(日本植民地時代の貴重な雑誌)



(貴重文書のフィルムの閲覧区)